令和6年度 事業報告

【認知症施策推進大綱 5つの柱に沿って施策を推進】

1. 普及啓発・本人発信支援

①認知症サポーター養成講座の実施 別紙1

実績：10か所、325名

②キャラバン・メイト意見交換会の開催

○令和7年3月 キャラバン・メイトにアンケートを取り、次年度の意向確認や要望等を確認。

③認知症月間における広報

- 図書館において、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介。
- パオにおいて、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介、オレンジ作品展(認知症グループホームの作品展)、オレンジガーデニングプロジェクト、「令和6年度認知症フォーラム」DVD上映。
- 西都市役所において、認知症パネル展示、認知症関連パンフレット設置、認知症関連本の紹介、オレンジガーデニングプロジェクトを実施。
- 民生委員・児童委員定例会、各支所、図書館、パオ、生きがい交流広場、西都市西児湯医師会、市内調剤薬局、西都警察署などへパネル展示チラシの設置等を依頼。
- 出前講座等にてパネル展示チラシの配布。
- 認知症の日(9月21日)に、液晶プロジェクターを使用し、西都市役所本庁舎をオレンジ色の光でライトアップするとともに、オレンジガーデニングプロジェクトやパネル展示など西都市の認知症施策を紹介。

④認知症フォーラムの開催

- 日程：令和6年7月14日(土) 10時30分～12時 西都市文化ホール
- 内容：第1部(講演)「認知症になってもだいじょうぶ！ そんな社会を創っていきましょう」
【講師：認知症希望大使 藤田和子氏、パートナー：金谷佳寿子氏】
第2部 パネルディスカッション
(テーマ)誰もが自分らしく、ともに生きる西都市を目指して
※開演前に西都市認知症施策やグループホームを紹介したDVDを上映。
- 参加者：約320名
- 感想やご意見など(令和6年度フォーラム時のアンケートより抜粋)
 - ・今回のように当事者・支援者の話が一番参考になるので、継続してほしい
 - ・当事者の方も参加したグループディスカッションがあればいいと思う
 - ・認知症の人本人の話も良いけれど、サポートをしておられる家族の話を聞きたい
 - ・西都市での事例など
 - ・認知症サポーター養成講座を土日に開催してほしい
 - ・認知症の家族としてどう接していけばいいのか分からない時があるので、その辺の話をしてほしい

○令和7年度実施に向けて計画立案・準備。

⑤本人発信支援

○パネル展示の導入として、認知症本人大使「希望大使」からの西都市へのメッセージを紹介するとともに、西都市の認知症の人や家族の声を紹介した。

○認知症あんしんガイドに、「認知症本人ガイド」「認知症と共に生きる希望宣言」を掲載し、普及啓発。

○オレンジランプ上映後（9月8日／西都市文化ホール）、丹野智文さんからの西都市民へのメッセージを上映。

○認知症本人が興味・関心のあることをできるように個別支援した。

⑥その他

○広報さいと9月号に認知症に関する記事（早期発見のためのチェックリスト、声をかける時のポイント等）を掲載。

2. 予防

①既存事業や出前講座における認知症予防の情報提供及び社会参加活動の促進

別紙2-①②③

○実施回数：54回、参加者数：789名

○サロン、百歳体操、オレンジカフェ、運転免許自主返納者等に認知症予防の情報を提供した。

○サロンや百歳体操など社会活動に参加されていない方へ参加を勧奨した。

○出前講座の内容としては、認知症早期受診勧奨やMCI、コグニサイズ等をベースに地域の実情に応じて対応した。

② 運転免許自主返納高齢者（同意者）への実態把握

○免許返納により社会活動が低下し、認知症発症のリスクが高くなる方に対し、実態把握と情報提供を行った。

●自宅訪問者：18件（北包括 3件／南包括 15件）

●電話等による状況把握：28件（北包括 15件／南包括 13件）

○免許返納しやすい環境づくりとして、「免許返納あんしんガイド」の作成や「コミバス体験会」「シニアカー安全運転講習会」を実施。

3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

①認知症地域支援推進員を各地区地域包括支援センターに1名ずつ配置

②認知症初期集中支援チームの活動

○人員編成

専門医…松本 英裕 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 医師）

専門職…土持 由香 氏（合同会社 As a person 訪問看護ステーションいいな 看護師）

中武 潤弥 氏（社会医療法人暁星会 三財病院 社会福祉士）※7月23日まで

戸田 友紀 氏（医療法人恵喜会 西都病院 精神保健福祉士）※7月24日から

○実績：令和6年6月11日（火）支援ケース検討協議を実施。

ケース提供者：南包括八代氏

参加メンバー：専門職（土持氏、中武氏）、認知症地域支援推進員（北包括小牧氏・南包括小牧氏）、市（丸山、金丸、増田）

・協議を行う中で緊急性が高いと判断し、その日のうちに警察・建築住宅課・健康管理課職員で自宅訪問。衰弱している様子があり、救急車を呼んで西都児湯医療センターに搬送、入院となる。現在は西都病院転院し療養中であるが、在宅復帰の目途は立っていない。

③オレンジカフェ ホット・ハート in さいとの開催 別紙2-④

○実施回数：12回 参加者数（延べ）：274名

④誰でもカフェの開催 別紙2-④

○実施回数：5回 参加者数（延べ）：66名

※9月はオレンジカフェと合同開催のため回数、参加人数は除く

⑤認知症あんしんガイド（ケアパス）の見直し・作成、活用

○1,500部作成し、関係機関に配布

⑥医療機関とのネットワーク構築

○西都市西児湯医師会等を通じてケアパス、認知症フォーラムチラシ・ポスター等を配布。

○三財病院もの忘れ外来では、月1回のもの忘れ外来時、医師の診察後、医療ソーシャルワーカーが本人・家族と面談し、西都市の認知症施策を紹介。支援が必要な方については、本人・家族の了解を得て包括につなぎ支援を継続。

○西都病院 院内勉強会にて、西都市の認知症施策について紹介。

4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

①西都市認知症 SOS ネットワーク事業

（メール配信）

○メール配信実績：1件

（経緯）令和6年9月23日の14時頃に、穂北地区在住89歳女性が自宅から徒歩で外出し行方不明になる。その後、家族が西都警察署に行方不明者届を提出する。9月24日に利用している介護サービス事業所より地域包括支援センターに連絡があり、メールと市公式ラインで配信を行った。9月30日に捜索解除の配信をした。

○メール登録の呼びかけ

（個別）実3名（南：3名・北：0名）・延3名（南：3名・北：0名）

（集団）回数：16回（南：9回・北：7回）・人数：271名（南：175名・北：96名）

・令和7年1月に防災メールと市公式LINEにてメール登録の呼びかけを行ったところ30件の登録があった。

・メール登録者数（合計）：1,018名（令和6年度登録者数：80名）

(事前登録)

- 事前登録者数：14名（再掲：新規4名）
R6年度解除者9名（内訳：入所・入院4名、死亡4名、その他1名）
- 見守りシール交付者数：10名（R6年度：新規2名）
- モニタリング実施数：19名

(その他)

- 西都市認知症 SOS ネットワークパンフレット改訂。

②チームオレンジの構築

- 開催日：令和7年3月5日（水）13時30分～15時 参加人数：8名
- 内容：認知症地域支援推進員によるオレンジパートナー活動報告会

③ヘルプカード活用・推進

- ヘルプカード（緊急連絡先や必要な支援内容などが記載され、日常生活で困った際に、周囲の理解や支援を求めるためのカード）を既存事業で把握した認知症本人やその家族に紹介。
- ヘルプカードの利用を希望する認知症本人と一緒にヘルプカードを作成する。
 - ・ヘルプカードの紹介 回数：26回、人数：326名
(南：18回、221名・北：8回、105名)
 - ・ヘルプカードの作成支援 人数：4名（南：3名・北：1名）

④認知症本人の社会参加支援

- 認知症本人が興味・関心のあることをできるように個別支援した。
- 本人交流会の開催（6月、12月、3月）※12月は宮崎市・国富町共催
- 本人交流会への参加（1月：宮崎市主催）

⑤認知症の人と家族の一体的支援事業 別紙2-⑤

- 実施回数：11回 参加者数（延べ）：120名
- ※9月はオレンジカフェと合同開催のため回数、参加人数は除く

⑥県が設置している若年性認知症コーディネーターによる相談窓口の周知

- ケアパスに相談窓口を掲載。
- 県が作成している「若年性認知症コーディネーターチラシ」と「若年性認知症ハンドブック」を市民課、福祉事務所、ハローワーク等に配布し、認知症月間でのパネル展示であわせて展示。
- 対象者に応じて認知症地域支援推進員が若年性認知症コーディネーターと連携した。

5. 研究開発・産業促進・国際展開

- 認知症新薬レカネマブやドナネマブの最新知識について学ぶために、エーザイ担当者による研修会を開催。
- 出前講座等で新薬レカネマブの紹介や早期発見・早期治療の重要性について啓発を行った。